

Title	医療ソーシャルワーカーになって(第9回ピア・スーパービジョン)
Author(s)	山谷, 謙介
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 27-27
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3987
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

医療ソーシャルワーカーになって 山谷謙介

医療ソーシャルワーカーになったきっかけは、人の役に立つ仕事をしたいという思いがありました。学生の頃に医療ソーシャルワーカーという職種があることを知って、これだと思ったので目指そうと思いました。

私が勤めている病院は、一般病棟73床療養病棟43床の医療の療養型病院です。仕事内容は大まかに分けて六つあります。一つ目は他の病院等から療養目的で転院相談が来た時の対応です。流れとしては、先方の担当者から連絡を受け、入院判定に必要な患者様の状況確認をします。その後、診療情報提供書・ADL表・血液検査データ・患者様の状態によっては透析サマリー等をFAXしてもらい、書類が届いたら判定を行います。療養病棟担当の医師と看護師、薬剤師、患者様が透析導入されている場合は内科の医師や臨床工学技士とも相談をして受入れの判定を行います。判定結果を先方の担当者に伝えるまでにかかる時間としては一

週間以内で返答します。受入可能であれば家族面談して、問題なければベッド調整が出来次第、転院となる流れになります。二つ目は一般病棟と療養病棟のベッド調整です。外部から転院相談を受けていた患者様のベッド調整や院内の患者様で一般病棟から療養病棟に転科する患者様のベッド調整を各病棟の管理者と連携して行います。三つ目は退院援助です。病棟から依頼が来ることもあれば、患者様の家族から相談が来ることもあり、その中で一番多い相談内容が施設や病院の紹介です。四つ目は院内関連部署との連絡・調整です。各病棟の他に医事課・薬局・透析室・機能訓練室・訪問看護ステーションに退院援助または療養目的の転院の受入れの際等に必要に応じて連携をとります。五つ目は他の病院・施設の担当者、ケアマネージャー等との連絡調整です。転院相談の件等で連絡調整をします。六つ目は退院支援計画書の作成等です。退院支援計画書は療養病棟に入院されている患者様に、退院に係る問題点や課題、退院に向けた目標設定、予想される退院先等を書面に記載して患者様またはその家族に説明をします。

医療ソーシャルワーカーになって思ったことは、患者様または家族から相談を受けた時に「今まで誰に相談をすれば良いのかわからなかった」との声を聞くことがあり、院内だけでなく地域にも認知されるように行動を起こしていく必要があるということです。しかし、現状は院内のことで精一杯で地域の方にはまでは手が回らないので、この問題は今後の課題の一つです。

（やまたに・けんすけ 中島病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務 社会福祉士
2008年度人間福祉学科卒業）